

# うきたむ

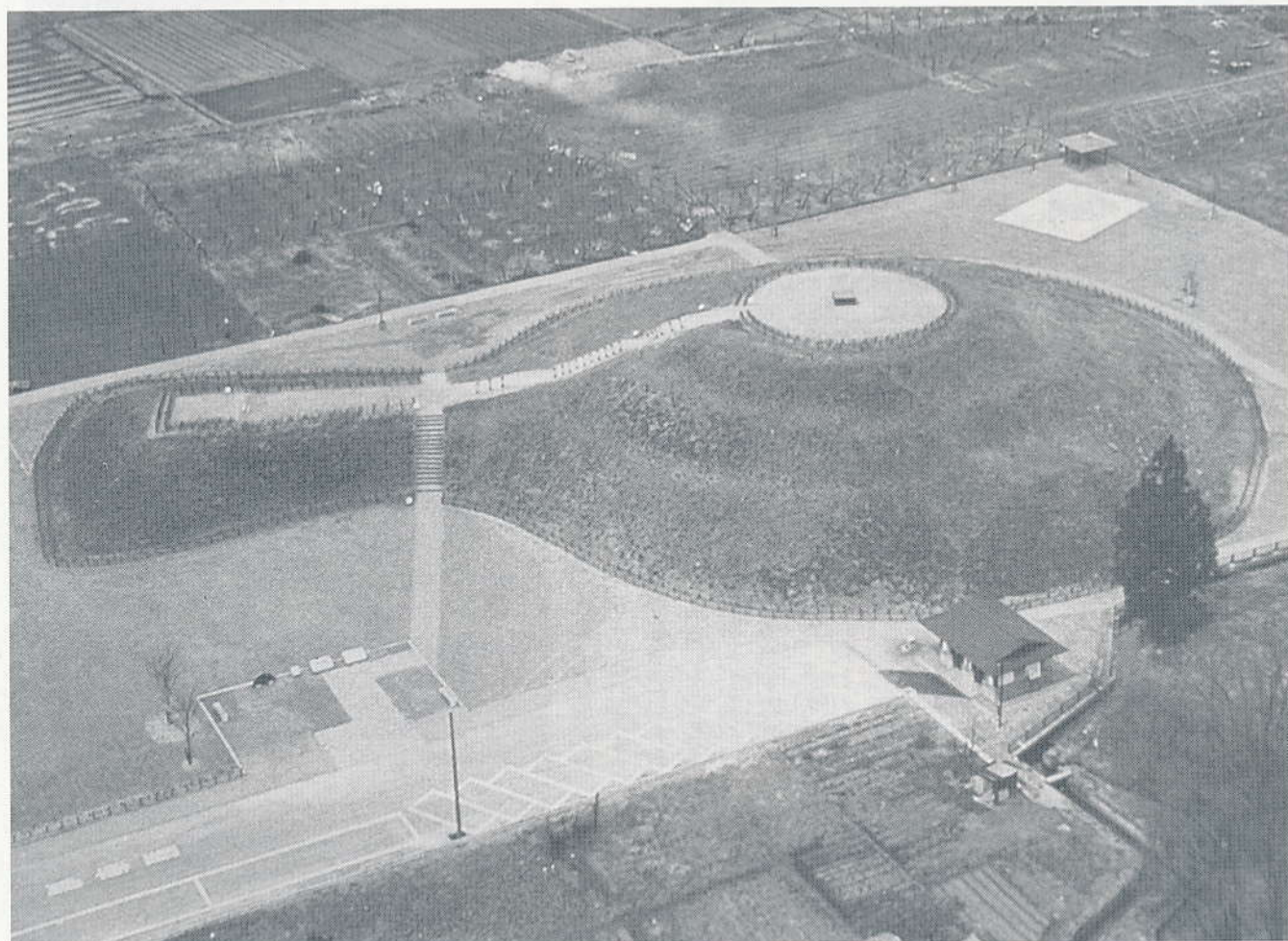
第25号

2005.7.15

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高畠町大字安久津2117 TEL0238-52-2585

FAX0238-52-4665



▲南陽市 稲荷森古墳（国指定史跡）

## 古墳と方位

考古資料館 館長

佐藤 鎮雄

古墳巡りをして各地を歩いていると、ふと方位について気づくことがあります。古墳の向きが様々である場合と一定な場合があることです。

南陽市にある大型前方後円墳の稲荷森古墳は、南南西に前方部を向けています。川西町にある大型前方後円墳の天神森古墳は北北西に前方部を向けています。このように四世紀から五世紀の古墳の向きは方位が多様です。この傾向は日本各地の古墳において共通しています。置賜地方でははつきり言えませんが、全国的には六世紀に入っても同じ傾向が続く中、南向きの古墳が多くなってきました。七世紀に入ると、全国的には南向きの古墳が大半で、次に東向きの古墳が続きます。置賜地方の七世紀から八世紀にまたがって出現する横穴式石室の終末期古墳は、いずれも南向きで、稀に東向きのものがあります。

古墳の向きを概観すると、そこには重要な古墳時代の画期が浮かび上がってきます。まず、南向古墳が多くなってくる五世紀から六世紀にかけての時期は、横穴式石室が登場し群集墳が出現する時期です。つまり、古墳時代前期と後期の境であります。殆ど南向き、稀に東向きになる七世紀は、前方後円墳が姿を消し各地で古墳の築造が終わって、一部の地域で小型の群集墳が造られるようになる時期です。つまり、後期と終末期の境であります。

背景を探れば、もっと面白いことにたどり着くに違いありません。楽しい古墳巡りです。

# 古墳ができたころ

山形盆地の集落を中心に

## 古墳ができたころ

今年度の企画展は、「古墳ができたころ—山形盆地の集落を中心に—」をテーマとし、一〇月〜十一月に開催いたします。

古墳は三世紀後半から七世紀にかけて各地で造られ、山形盆地においても、山辺町要害古墳・大塚天神古墳など、西部の丘陵地またはその周辺に造られるよ



▲山形市双葉町遺跡の土器（山形市教委所蔵）

うになります。古墳が造られた背景には、その地域に首長を頂点とする社会が存在したことを示しています。

古墳が造られたころ（古墳時代前期）のムラの様子はどんなものだったのでしょうか。山形盆地では、近年の発掘調査によって、古墳時代前期の集落の様子が少しずつ明らかになりました。

河川に沿った自然堤防の周辺などに集落が形づくられ、後背湿地などの平地には水田が広がっていたと考えられます。集落からは、北陸や東海地方の要素を持つ土器や木製品が出土しています。これは、大和政権が各地に勢力を拡大していく過程で、物や人の移動が盛んに行われたことを示しています。

### 土器や木製品などを

#### 一堂に展示

古墳時代前期は、土師器といわれる土器を使って

いました。当時の土師器は、壺や高坏、器台、小型丸底鉢（つぼ）、甑（こしき）など、さまざまな用途の器でした。高坏や器台・小型丸底鉢は、おまつりに使われる器とされ、赤く彩色されたものも見つかります。どのような器のセットで食事、あるいはおまつりをしていたのか、楽しみにしてください。

古墳を造ったり、住居を建てたり、水田を開発する際に使用したのが、土木用具・農具としての鍬（くわ）や鋤（すき）です。木製の鍬、鋤も多くみつき、それまでとは異なる大規模な開発が行われたことが想像されます。神殿や倉庫の建築様式といわれる棟持柱（むなもちばしら）をもつ堀立柱建物跡もみつき、一般の住居とは異なる特別な建物の存在も明らかになっています。また、おまつりに使われたと考えられる四方転びの箱や破鏡もみつきかっています。赤彩された土器と一緒に使われたのでしょうか。首長の交代に関わるまつり、収穫を祈り感謝するまつりなど、様々なまつりがとり行われていたことでしょう。

これら資料をぜひご見学ください。古墳ができたころにタイムスリップ！

## 夏は考古資料館で

過ごそう！



考古資料館では、この夏も様々な事業を開催します。体験教室に参加するもよし、セミナーで学習するもよし、自由研究の資料を探すもよし。あなたはどのように過ごしますか。

### ●体験教室

・勾玉・弓矢をつくらう

七月三〇日（土）

・野焼きのための焼物教室

「縄文土器・土笛・土面など」

八月七日（日）・一〇月三〇日

（日）野焼きも参加できる方

### ●考古学セミナー

・古墳出現期の考古学

七月一七日（日）・二四日（日）

三一日（日）八月二日（日）・二

八日（日）

古墳ができたころの社会の様子、土器の様子、古墳そのものについて等、講師をお迎えして学習します。

◎自由研究のご相談は職員までお願い致します。



▲野焼きのための焼物教室

## 新スタッフで

頑張ります！

人事異動によりスタッフが変更されました。これまで館長を勤められた川崎利夫先生に代わって、前高島小学校長の佐藤鎮雄先生が新館長に就任しました。また、主事小林貴宏に代わって主事高橋博が上下水道課より赴任しました。他のスタッフは代わりません。今年度もよろしくお願いたします。

# 2005年度 資料館利用の手引き



高島町日向洞窟



弓矢作り体験

### 目次

#### 資料館利用の手引き

- 1、入館料等
- 2、利用にあたって
- 3、情報提供
- 4、資料の貸し出し

#### 利用例

- 歴史公園案内
- 減免申請書
- 利用打合せ書



縄文土器

### ▲資料館利用の手引き



### ▲歴史公園の説明



### ▲火おこし



### ▲遺跡めぐり（山形市尚古館にて）

# きて・みて・ふれて 考古資料館

～学校教育との連携を目指して～

当考古資料館では、社会科学習・総合学習の授業やクラブ活動、親子行事、公民館事業などのお手伝いを通して、多くの学校をお迎えしています。主なメニューは、資料館・歴史公園の見学のほか、勾玉・弓矢などを作る体験活動や史跡見学などです。今後、多くの学校にご利用いただきたいと考えています。そのため、利用評価や要望も承り、常に工夫しております。

まずは、皆様に当館を知っていただきたいと考え、毎年、各学校や公民館等に「資料館利用の手引き」をお送りしています。利用の方法を細かに記載しておりますので、ぜひご確認ください。

学校の授業でご利用いただく場合は、各学校のカリキュラムに沿って学習を進めます。そのため、事前打ち合わせを大事にしています。あくまでも学習の成果をあげることがねらいです。

当館で大事にしている本物の土器や石器にふれ、体験活動や史跡見学をすることは、歴史を身近に感じさせ新しい発見をさせてくれます。生きる力を養うことにもつながります。

遠足やクラブ活動、地域の生涯学習にもご利用いただけます。体験活動を重視したご利用が多く、考古学を楽しく学んでもらいます。

ご利用の方法は様々です。利用目的に応じて柔軟にメニュー

を工夫します。気軽にお問い合わせいただき、ぜひ当館をご利用ください。

**◆多彩なメニュー◆**

- ・資料館内展示解説
- ・歴史公園内説明
- ・体験活動
- ・勾玉づくり
- ・弓矢づくり・弓矢の実射体験
- ・編布（あんぎん）づくり
- ・土器づくり
- ・火おこし など
- ・近隣史跡案内
- ・日向洞窟
- ・一の沢洞窟
- ・金原古墳
- ・羽山古墳
- ・稲荷森古墳 など

二学期が始まると学校行事が目白押しですが、考古資料館も楽しい事業がいっぱいです。古墳時代をテーマとした企画展も開催します。社会科学の授業の一環としても、ぜひ見学にいらしてください。

うきたむ縄文まつり：九月一日（日）縄文体験教室・縄文太鼓の演奏・縄文食試食など

・秋の遺跡めぐり「寒河江市・河北町」一〇月九日（日）

・第一三回企画展「古墳ができたころー山形盆地の集落を中心に」一〇月一日（土）～十一月三〇日（水）

・企画展記念講演会「土器からみる古墳出現期の地域間交流」東北学院大学教授 辻秀人先生 十一月二〇日（日）



代表的な終末期古墳

か な ば ら  
**金原古墳**

金原古墳は、山形県内の飛鳥・奈良時代の古墳において、代表的な古墳の一つです。高島町の東部、高島地区の東、金原にあります。西に流れ

る屋代川と北へ流れる上有無川の合流点から南へ約1km、上有無川に沿ったぶどう・まつたけラインから少し西へ入ったぶどう園の中にあります。案内標識があるのでわかりやすいです。置賜の七世紀から八世紀にか



▲南からみた金原古墳

けて出現する終末期古墳は、飛鳥・奈良時代の墳墓であります。『日本書記』持統天皇三年(六八九年)の条に出てくる優嗜曇郡と密接に関わりを持っています。優嗜曇郡は最初の置賜の郡名であり、弘文一年(六七二年)の陸奥国設置の段階から既に存在し、和銅年間(七〇八年〜)の置賜郡まで存続します。

最上川東岸の山麓部に立地する終末期古墳は、地元産の凝灰岩を石材とする小規模な横穴石室、直径十数m程度の小さな墳丘を特徴としています。群集墳であり、平地に接する山麓の南斜面や東斜面に複数で立地しています。開口部を南に向け、集落や耕作地と異なる墓域に造られています。

置賜の終末期古墳分布の中心である高島は、初期郡衙の推定地で、郡衙や集落の地区の、屋代川を挟んだ対岸の北部丘陵や、それに合流する上有無川・下有無川の付近に古墳が分布します。多くは斜面に分布しますが、ここでは平地にも古墳が造られており、金原古墳はその代表例です。墳丘は直径二四mとやや大きく、玄室も幅二・三m、奥行二・六mの方形をなしています。玄室や羨道は切石で造られています。石室形式から七世紀後半のものとみられており、優嗜曇郡の郡衙を支えた豪族層の墳墓と考えられます。

金原古墳は、置賜の終末期古墳の中でもひとときわ特色のある古墳で、なお一層の解明が待たれます。

我が館の展示品⑮

**山形市中野遺跡の小型丸底鉢**

中野遺跡は山形市中野地区にあり、西側を流れる須川と東側を流れる白川(馬見ヶ崎川の下流)の氾濫によって形づくられた自然堤防上に位置します。東側には同じ古墳時代の馬洗場B遺跡・藤治屋敷遺跡があり、周辺にもその他多くの遺跡が点在しています。

今回紹介する展示品は、古墳時代前期の小型丸底鉢です。



▲中野遺跡の小型丸底鉢

昭和二〇年代後半から三〇年代にかけて山形大学が収集したものと考えられます。小型丸底鉢は柑(つぼ・かん)とも呼ばれ、丸い底と開いた口(頸部)が特徴的で、祭祀に関する土器として認識されています。器高七・〇cm、口径一三・〇cm、器厚〇・五cmで、内外面共に赤く彩色されています。頸部外面はハケメ・ナデ・ミガキ、胴部外面はケズリ・ミガキの調整が見られます。内面は、頸部にハケメと輪積みの痕、胴部から底部に

ハケメがわずかに見られます。すでに述べたとおり、中野遺跡の東側には馬洗場B遺跡・藤治屋敷遺跡が位置し、土器・木製品・破鏡など古墳時代前期の遺物が多数出土しています。発掘調査が大規模に進んだ現在では、古墳時代前期に当地域が様々な形で利用されたことが明らかになっていますが、この小型丸底鉢がその事実を示唆する資料であったともいえるでしょう。赤く彩色された土器を囲む人々の姿が浮かんでくるようです。